

服飾造形実習の指導についての一考察

— 授業後アンケート結果に基づく指導過程の省察の試み —

藤田 恵子

「服飾造形実習・演習B」の授業の最終日までには、受講生の全員が衿付き長袖ブラウス制作を完成させ作品を着装発表することができた。最終日には各部位の制作工程の難易度や、自作品についての満足度、サンプルを参考にしたかなどのアンケート調査を実施した。

結果、80.8%の学生が初めて衿付き長袖ブラウス制作に挑戦していた。自作品について「気に入っている」が57.7%、「どちらともいえない」が34.6%、「気に入らない」が7.7%であった。初めて挑戦する作品が「お気に入り」になることは容易なことではないが、ここでの経験や出来栄は今後の制作意欲に少なからず影響すると考えられる。さらに、授業で用意したサンプルを参考にしたかの質問には80.8%が参考にしたと回答した。

以上のことから、デザインのイメージが湧くようなサンプルを用意し、部位によっては困難な技術もあるが、気に入った作品になるよう的確な働きかけが必要だと考える。

キーワード：原型製図 ブラウス製図 仮縫い 補正 本縫い

はじめに

これまでブラウス制作についての先行研究では、制作の手順や制作時間の調査がある¹⁾。また、時間のかかる製図については、時間短縮のためにパターンメイキングシステムと着用シュミレーションソフトを利用したICT活用や²⁾、Personal Computer活用の研究³⁾がおこなわれている。しかし、授業を受ける学生に制作の工程について、その難易度や感想を聞きだした事例はあまりみられない。

筆者が担当している「服飾造形実習・演習B」では、上衣として衿付き長袖のブラウスを制作している。既に「服飾造形実習・演習A」で下衣のショートパンツとスカート制作をしていることを履修条件にしている。多くの学生は衣料管理士1級の資格取得の必修科目であるため履修をしているが、中には実習が得意な家庭科の先生になりたいからとか、ブラウスを作ってみたいからという

理由で履修している学生もいる。

ブラウス制作では、人体計測、原型とブラウスの製図、裁断、仮縫、衿や袖と身頃の縫合、ボタンホール処理、ボタン付けと、完成までの工程が長い。1回完結の授業ではなく、毎時間の積み上げをしてはじめて完成に到達できる訳で、どこかの工程を抜いては完成させることはできない。

学生が難しかったと感じた工程や、完成した作品についての満足度はどうか、また、サンプルを参考にしたかなどについて、学生がどう考えているかを知ることにより、今後の実習に反映させることを目的として、学生にアンケートを実施した。

1. 方法

「服飾造形実習・演習B」は、2年生対象に後期に開講している科目である。アンケートは2011年1月27日、「服飾造形実習・演習B」の最終日に実施した。当日介護等体験で欠席した学生には後日実施した。

授業の最終日には、完成作品を全員の前で披露

する「着装発表」と、レポート提出も課している。「着装発表」では、作品とコーディネートすることをテーマにしている。レポートの内容は、ブラウス制作の工程をまとめることと、自作品に近い既製品のトレンドを市場調査し、自作品と比較することを課している。

ブラウス制作の工程については、学生が筆者の手作りのテキストに毎時間書き込んだメモをまとめてレポートを作成し、その工程を復習することになる。また普段の実習態度も真面目で、期日前に全員が作品を完成させていることから、アンケートの回答には真摯に向き合ったと考えて良い。

アンケートの設問内容は以下の通りである。

- ① 衿付きの長袖ブラウス制作の経験の有無および経験の時期。
- ② 制作過程における各作業工程（衿作りと衿付け12工程、袖作りと袖付け12工程、接着芯の裁断と貼り付け6工程）の難度（難しいと感じた順位）づけと、最も難しかった工程の理由（自由記述）。
- ③ ボタンホールのかがり方とその方法選択の理由。
- ④ 人体計測からボタン付けまでの制作18工程の難度づけ。
- ⑤ 18工程における作業の合理性に納得した箇所および「上手くできた」と思う箇所。
- ⑥ 完成作品を気に入っているか否かとその理由（自由記述）。
- ⑦ 布の色の気に入りと厚みの扱いやすさ。
- ⑧ 用意したサンプルについての意見。
- ⑨ 今後作りたいデザイン（自由記述）。

原型製図については、前期開講の「服飾設計論」（他の教員担当）の履修者21名が、既に授業で製図および補正原型を制作しているので、履修していない5名が原型を時間外に製図した。

設問にあるサンプルは、色や衿の形が異なる7体で、内1体は仮縫い用であり、全て筆者の制作によるものである。ボタンホールは全て手がかりである。今回の衿のデザインについては、シャツカラーあるいはフラットカラーを原則とした。その中で衿先は角でも丸でも良しとし、大きさも、胸元の開き具合も自由にした。ただ、仮縫いで、ネクタイを締めて着用したい、と伝えてきた学生

には台衿付きのシャツカラーへの補正を促し、自分でデザインをしたいと申し出た学生に対しては、学生のアイデアを優先し、パターン作りの段階で製図法に加えてボディを使用するドレーピング法を用いた制作を支援した。

2. 結果および考察

回答数は26名で回答率は100%である。以下、実習の授業を進めるに当たり、今後配慮が必要と思われる結果について述べる。以下、アンケートの結果に関して、学生の実習時の様子と筆者の指導方法を合わせてみていく。

（1）制作経験

衿付き長袖ブラウスを本授業で初めて制作したと回答したのが21人、80.8%である（図1）。経験者5名の内、高2の時に制作したのが3名、高3が2名である。経験者はデモンストレーションの際での理解が早く、作業も手際よく行い、クラスを牽引してくれた印象である。未経験者は経験者の手際の良さを認め、見習う姿勢がみられた。

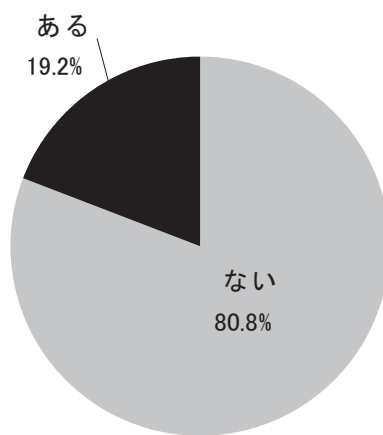


図1 衿付き長袖ブラウス制作経験の有無

（2）難易度の高かった箇所

全工程18の中でどの箇所が難しかったか順位を付けてもらい、最も難しかった1番から5番までを合算して図2に示した。

最も難しかったと回答した項目は、「原型製図」と「袖付けのミシン」の19名で、全体の73.1%

であった。続いて「ブラウスの製図」が16名で61.5%、「衿付け」と「袖口のカフス付け」が11名で42.3%、「仮縫い」と「袖付けのロックミシン」が10名で40%と続く。以下、これらの7項目について、その指導過程を振り返りながらみていく。

原型製図

「原型製図」は、文化式原型を使用している。各自の胸囲と背丈の計測値に基づいて各部位を算出する胸度式製図法である。算出値は手作りテキストの表に著されているので、学生は計算の必要はないが、各部位の数値を確認しながら製図しなければならない。製図は前後1/2の身頃を表し、1mm単位で書いていかなければならない。学生は難しかった理由として、計算が苦手、製図が苦手、カーブがうまくいかなかった、mm単位だったなどを挙げている。

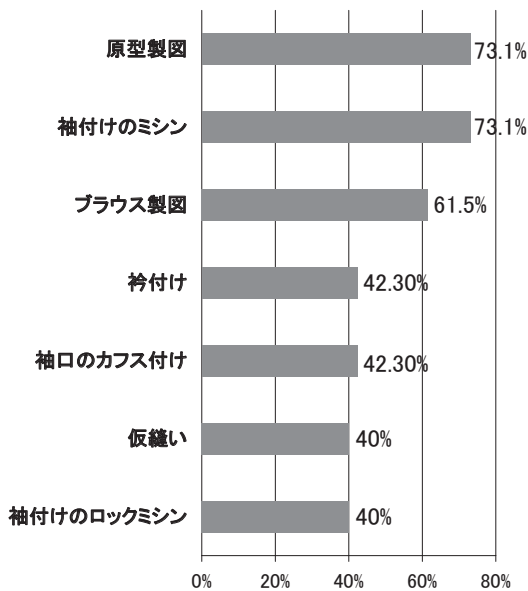


図2 難易度の高かった箇所

衣分野を履修する学生は、定規を使用して直線や曲線を寸法通りに書くことに慣れていないことが、原型やブラウスの製図が難しかったと回答した要因と推測される。一般的には真っ白な用紙に製図を書くのだが、直線や直角を書きやすくするために、2.5cm四方に小さなマークが印刷され、さらに10cm毎に少し大きなマークが付いたマーキン

グペーパーを採用している。それでも直角や直線を引くことが難しい学生も少なくなく、学生が製図した後は必ずチェックが不可欠なのが現状である。時には計算違いで製図の寸法が大きく異なることもあるので、ここでの指導上のチェックは欠かせない。

ブラウス製図

「ブラウスの製図」は、人体にフィットする原型にゆとりをプラスして描き、さらに衿や袖も製図することになる。黒板には実物の1.5倍の製図を横に貼り、製図の手順を板書しながら、教壇の上から学生が製図する様子に気配りをし、遅い学生のところに行ってチェックをしている。また、切り貼りするときには学生を集めて、デモンストレーションをしている。ブラウスのパターンを制作するには、ダーツやパターンを畳んだり切り開いたり、紙を貼ったりして線を修正する。衿の大きさや形と胸元の開きを決定し製図する場面では、サンプルを提示していることから、サンプルを試着して鏡に映して胸元の開きを確認したり、ボディを使用して衿のサイズをみる学生もいて、真剣そのものである。ここでの一連の作業が、学生にとって煩雑な印象になり、アンケートの結果に表れたと思われる。しかし、ここでの作業は、デザインを自分好みに具現化するためには不可欠である。

袖付けのミシン

「袖付けのミシン」は、出来上がった袖の袖山をぐし縫いし、ギャザーにならないようにいせ込みをし、アイロンで落ち着かせて身頃のアームホールのカーブに合わせて縫合する作業である。カーブの異なる部位同士を縫合するのは、最も難しい作業のひとつではある。学生が難しかった理由として挙げたのは、ほとんどはこのいせ込みの部分であった。初めての学生には難しいので、タックやギャザーにならないことを目標に指導した。

袖を身頃に付ける際のピン取りの段階で、ほぼ袖付けの良し悪しが予測できる。ピン取りは一般的に縫い目線に対して直角に打つのであるが、袖付け線についてだけは、それをするとは袖山のカーブにピンが直角に向かうことになり、袖付け線のいせ込み量の良し悪しを学生に理解させられない

ので、筆者の経験から縫い目線に平行にピンを打つように指示している。左右の袖の間違いも確認できる。袖付けのいせ込みが上手にでき、袖がきれいに付けそうだと見通しが立てられると、学生は一同に「ワーきれい！」と感動の表情を示してくれる。そして嬉しそうな表情になり、意欲が湧いてくるのか、「頑張ろう」というような態度を表すのである。ここのピン取り段階で全員のチェックをしている。筆者はブラウスの要は、衿と袖だと思うので、次のしつけの段階でも全員の点検をしている。袖付けのやり直しはつらいものであるから、ゆっくり丁寧なミシン掛けをするように一人一人に注意をし、これが出来たら完成間近ということで、励ますようにしている。

中には左右の袖作りができた段階で、まだ身頃に縫合されていないのに、嬉しさのあまり、家で「妹に自慢して見せた」と報告してくれた学生もあり、ブラウスが次第に形になって行くに従って、完成を心待ちにしていることが、学生の態度や会話の中に読み取ることができる。

衿付け

続いて難しかったとされた「衿付け」では、形成した衿を身頃に縫合する際のバイアス使用を採用している。高校時代に制作経験がある学生も、「衿付け」にバイアスを使用するのは全員が初めてだった。一般的にはバイアスを使用しない方が容易である。

バイアス布は市販されているので、制作中の布の色に近いものを購入することもできる。しかし、使用する長さが短いことと、今後小物制作でも他の衣服でも、色々な場面でバイアスを応用できると筆者は考え、ブラウスの残り布でバイアスを裁断して使用する方法を採用して教えている。45度のバイアスが伸び、裁断しにくいことを伝えるために裁断のデモンストレーションをしている。

衿付けは、身頃の上に形成した衿を置いて1回目のしつけをする。身頃の衿ぐり線のカーブと衿のカーブが異なるために、その縫合が難しい。アンケートでも、この部分が難しかったと回答している学生がいる。2回目のしつけは、見返しを折り、バイアスを付けるので、少なくとも4枚の布が重なり厚くなる。衿が難しかった理由のほとん

どがこの部分である。慣れてくると、これらを1回のしつけですが、学生には2段階に分けて2回しつけをさせている。常に机間巡視して学生の様子を観察し、悪戦苦闘している学生にはその都度手助けをするようにしている。初めて挑戦する工程でも、難なくできる学生の中にはいるので、感心することも多い。そんなときには「難しいところなのに、私より上手い！」と称賛すると学生は「ニコッ」と微笑み返す。

袖口のカフス付け

同じく難しかったとされる「袖口のカフス付け」は、長い袖口をカフスの長さにギャザーを寄せ、カフスに縫い付ける作業である。ギャザーを寄せる作業は「服飾造形実習・演習A」で、ギャザースカートを制作した学生は経験している。ここでは、ギャザーの寄せ方を左右同寸にしなければならないこと、厚くなる見返し部位や外側から見えにくい袖下などのギャザーの配分も考慮しなければならないことを指導している。手首周りが小さいので学生にとっては難しいのである。注意をしているのだが、ここでカフスの持ち出しを左右間違える学生がいた。カフス付のブラウスは、2年生の段階では馴染みがないのかも知れないと感じた。今後も注意が必要な個所である。

仮縫い

「仮縫い」が難しかった理由には、縫う部分が多く、布が多くなって行くにつれて難しくなると書いた学生がいる。このように努力をして組み立てて「仮縫い」で試着した後に、本縫いのために解体しなくてはならない。一生懸命組み立てた直後のほどく作業の指示には辛いものがある。

「仮縫い」の作業ができるだけ円滑に進むように筆者は考慮している。裁断後の印付けの段階で、一般的には学生が扱うような薄手のブラウスの布には、チャコペーパーとルレットで布の裏側に印を付ける。チャコペーパーの印は表からは見えないため、仮縫いの際衿付け線、前端し線、袖口のカフスの付け線、裾線などが不正確な線になってしまう嫌いがある。そこで、筆者は、これまでの経験から部分的に衿付け線、前中心線、ボタンの位置、前端線、裾線、袖口のカフスの付け線には、切りじつけをするように指示をしている。外表に

畳んで裁断した後、チャコペーパーの印と、切じつけの箇所を指定している。仮縫いの作業では、切りじつけがついている部分は布の表を見ながら作業ができるので、正確かつ手早くできる。

「仮縫い」が難しかった理由として、部品が多かったことが分かったが、印付けについては回答がなかったのも、学生に一応納得されたと考えられる。

袖付けのロックミシン

「袖付けのロックミシン」については、説明が必要である。一般的なロックミシンの利便性は、カットとかがりが同時にできることである。しかし、便利である一方、切りたくないところまでカットしてしまったら、どうしようという恐怖心が初心者には付きまとう。ショートパンツやスカート制作でロックミシンの失敗を毎年何人かしており、デザイン変更や裁断のし直しを余儀なくすることもある。ここでは学生のロックミシンに対する恐怖心を軽減するために、ミシンでの袖付け後、筒状の縫い代を裁ちばさみで整えさせ、その後カッターが作動しないようにセットして、かがりのみが作動するようにしている。この方法を伝えたときの学生のホットした表情が印象的である。この方法で今回は、ロックミシンによる失敗は皆無であったが、学生は袖付けのロックミシンが難しかったと回答しており、理由として1回で終わらなかったと書いている学生がいることから分かるように、慎重にカーブに沿ってロックミシンをかけていることが分かる。ロックミシンについての苦手意識を持たせない方法を考えることが今後の課題である。

(3) 容易だった箇所

難しかった順番の中で、最下位から5位までを容易な項目として捉え、まとめたものが図3である。「ボタン付け」が19名、73.1%であった。次に「ボタンホール」と「肩・脇のミシンとロックミシン」が14名、53.8%であった。「補正」が13名で50%、「人体計測」と「ダーツのミシン」が12名で46.2%、「布の裁断」が10名、40%と続く。

ボタン付け

「ボタン付け」については、小学校でやったボタン付けの作品を持ってきて見せてくれた学生が

いた。このように、多くは既に経験をしているようである。今回はおそらくこれまでに習ったことがないと思われる2本取りの糸を最初からボタンに通してから、本体の方に刺すというやり方を教えた。この方法は、ブラウスなどの小さいボタンを手元から転がらせずに付けられることから勧められている。学生は、なるほどというような表情で見入っていた。実際にやってみたら簡単にできたという結果が現れたのであろう。

ボタンホール

「ボタンホール」は、手かがりとミシンかがりを3個ずつ練習して本番に臨んだ。最終的には全てミシンによる方法、全て手かがり、基本的にはミシンだが生地が厚くなった所を手かがりにしたという3種類の方法だった。全てミシンでやった学生が10名、40%で、その内の50%が簡単だったと回答した。また、サンプルが全て手かがりだったので、最初からためらわずに手かがりを選んだ学生も7名、26.9%いた。その内の6名が容易だったと回答しており、手かがりの学生はボタンホールの数が増すごとに上手になっていき、出来栄に満足そうな表情だったのが印象的である。中には「手でやっても十分きれいにできる」と自信を表現している学生もいる。また、「ボタン付けや手でかがるボタンホールは他の作品にも応用でき

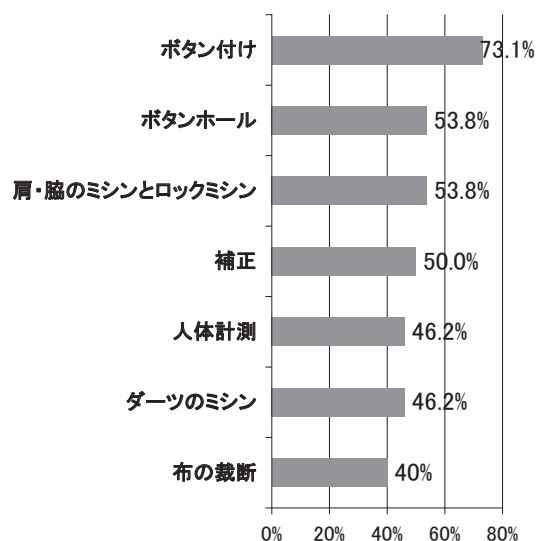


図3 容易だった箇所

る」と書いた学生もいる。採用したサンプルの効果があつたのではないかと考える。

肩・脇のミシンとロックミシン

「肩・脇のミシンとロックミシン」は、直線であることから、ミシン作業に慣れてきた学生にとっては、容易な作業になったと思われる。

補正

「補正」が必要だった学生は少なく、あっても衿、着丈、袖丈をわずかに修正する程度であつたため、「補正」が容易だった項目に挙げられたと推測される。補正があると学生にとっては作業が増えてしまい、他の学生から遅れてしまうという焦りがでてくるのではないと思われる。「補正」が難易度の高い項目にされないために、できるだけ補正を回避するように、指導者側は学生の体型を把握し、作りたいデザインの要求を製図に反映するようにアドバイスをし、裁断前のパターンチェックはしっかりとしなければならない。もしも、補正が必要な場合、修正後の見通しを理解させることが大切である。学生は納得すれば積極的に作業をするので、補正の作業による焦りを頑張りに変えるよう、できるだけ寄り添って励ますことが肝要と考える。

人体計測

「人体計測」については、2人1組で計測をする実習で、体型を観察したり、寸法の確認をしている。ここでは計測箇所が少ないことと、腕が長い、上腕周囲長が大きいなど、体型について学生の興味がでてくる箇所であることも容易とされた要因になっていると推測される。ただ、後述する自作品の満足度の質問では、袖が短かったと書いた学生が何人かいたことから、計測は容易でもここでの計測値とデザインとの関係についての説明が甘かったと反省している。

ダーツのミシン

「ダーツのミシン」は、セミタイトスカートやタイトスカートを制作した学生は、既にダーツ縫いを経験していることと、直線であることから容易だったと回答したと考えられる。

「布の裁断」については、パターンの各部位に縫い代分量をメモする工夫を指示し、縫い代付けには効率良く作業が進むよう方眼定規を使いこな

すこともアドバイスしており、裁断線が決定すれば裁断の作業は難しくないはずである。

(4) 自作品の満足度

図4は自作品が気に入ったかどうかの回答をみたものである。「気に入っている」の回答は15名、57.7%、「どちらとも言えない」が9名、34.6%、「気に入らない」が2名、7.7%である。

ファッションセンスが良く、衣服制作経験の乏しい現代の学生にとって、最終的に仕上がった作品がお気に入りになるということは、きわめて稀である。

「気に入っている」理由の記述を以下にみる。

- ・普段使えるものができた。
- ・何よりも台衿が成功したことと、ボタンも予想以上に合っていた。
- ・持っていないブラウスが作れたので良かった。
- ・白いスタンダードなものが欲しかったので、希望が叶った。
- ・欲しいブラウスに近いものができてうれしい。
- ・自分のイメージに近いものが作れた。
- ・色も衿の形も自分の思い通りにできた。
- ・作りたいお気に入りの生地で作れた。
- ・裾が思い通りに上手くいった。
- ・布の色や素材、衿にレースを付けたところ。
- ・思っていたより上手くきれいにできたと思う。
- ・色合い、丈の長さが自分好み。
- ・生地と衿のフラットカラーが気に入っている。
- ・衿の形、配色、サイズが気に入った。

などである。

今回、衿を最初から自分のセンスで、皆と異なるオリジナルカラーにした学生が2名いた。2名とも創作に他の学生の2倍も3倍も放課後や空き時間に時間をかけて努力した。結果、1名はお気に入りとして回答したが、1名は気に入らないと回答した。

「気に入らない」理由をみると、

- ・色と形をもっと変えたかった。
- ・作ってみたら、かわいくなかった。

である。

「どちらとも言えない」の理由を以下みていく。

- ・思ったようにできなかった。チャコの跡が残ってしまった。

- ・布の選び間違い。
- ・悪くはないが、少し小さくなってしまった。
- ・布の色がもう少し薄ければ良かった。袖の丈をもう少し長く作れば良かった。
- ・布の色が反対だったから。
- ・良くはできたが、普段着られる感じにはできなかったから。
- ・袖が短いところがうまくいかなかった。
- ・髪を切る前に選んだものだったので、今の自分には似合わなくなってしまったため。
- ・頑張って作ったので気に入らないではないが、きれいな仕上がりにはできなかったわけではないから。

などである。学生にはそれぞれ作品を評価する基準があるので、こちらの一方的な感覚を押し付けられないが、「気に入らない」と「どちらとも言えない」の理由の中に改善できる点があるように思う。「袖の長さが短かった」「小さかった」「かわいくなかった」などは、デザインを決定するときの説明不足と仮縫いのチェックが甘かったことが反省点としてあげられる。

これまで高校時代に衿付け長袖ブラウス制作を経験した5名の学生の今回の制作についてみると、「気に入った」が1名、「どちらとも言えない」が3名、「気に入らない」が1名である。

アイデアはあるが、技術が伴わない学生に、モチベーションを下げないよう後押しし続けるのはとても難しい問題である。

(5) サンプルを参考にしたか

仮縫い用も含めて衿形の異なる7着の筆者制作によるサンプルを参考にしたかの質問に対して、回答は図5のようであった。

「参考にした」が21名、80.8%、「どちらとも言えない」が3名、11.5%、「参考にしなかった」が2名、7.7%であった。

「参考にした」の回答者にサンプルのどこを参考にしたかを質問した結果、次のようであった。

「胸元の開き」と回答したのが18名で85.7%、「衿の形・大きさ」が13名で61.9%、「着丈」が8名、38.1%、「ボタンのサイズ・形」が7名、33.3%、「ボタンホール」が5名、23.8%である。「色」が0、「その他」が0である。

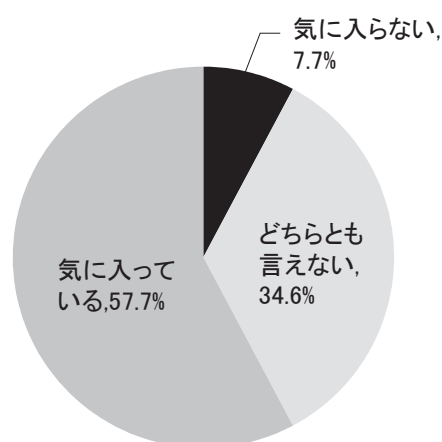


図4 自作品の満足度

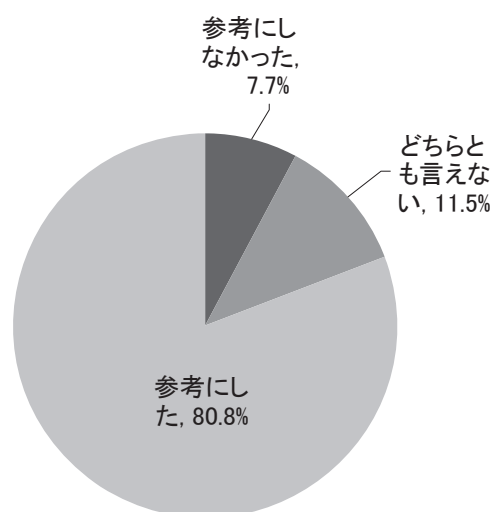


図5 サンプルを参考にしたか

このことから、サンプルを参考にして胸元の開きや衿、着丈を決定したことが分かる。デザインの決定や製図は作業工程の最初の段階であり、その時点の印象や意欲は、14～15回の授業のモチベーションに大きく影響すると思われることから、サンプルの持つ意味は大きいと言える。

(6) 「なるほど！」

「なるほど！」と思ったり、印象に残った箇所があったら自由に記述してほしいとの質問には、

「ボタンホールが手でかがれること」が10名、「衿をバイアスで始末したこと」が8名、中には「丸衿の衿先をきれいに丸くする方法が分かった」「計測のポイントが分かった」「仮縫いで組み立てた後全て戻してしまうからびっくり！」など、工程のさまざまなところで学生は驚き、感動していたことが分かった。80%の学生が初めてのブラウス制作だったことから、それぞれの工程での驚きと印象が、アンケートで伝わってくる。中には筆者が中学生の時、家庭科の教師から説明を受けた「ダーツはごみが溜まらない方向に倒す」の話を何度かしたことについて、その話が頭から離れないと書く学生もあり苦笑してしまう。学生は余談を良く覚えているものである。

こんなサンプルが欲しい

「こんなサンプルがあったら良かったのになー」と思うものを記述してもらった。「台衿付きシャツカラー」「セーラーカラー」「ウエストシェイプのデザイン」が挙げられた。全て学生の思うようにさせてあげたいが、デザインの種類が増えると、それぞれに説明が必要になり、限られた時間内では限界が生じるときもある。しかし、学生の素直な意見は参考にしなければならないと考えている。

3. まとめ

今日、学生は多種多様なデザインの衣類を様々なメディアを通して手軽に見ることができ、安価に入手できる手段も選択できるようになったことから、イメージの世界は広がっており、日常着などのコーディネートを見ると服飾のセンスが豊かな印象を持つ。しかし、高校までの家庭科での衣服製作の時間減少が顕著であり、日常服作りの経験が乏しく^{2) 4) 5)}、指先で針に糸を通し、操ることが難しいのが現状である。絵の得意な学生がいたり、コーディネートが上手な学生、化粧が上手い学生がおりイメージは先行するが、さまざまな種類の布を扱った経験がないことから、制作について現実が伴わない場面が少なくない。

適切なアドバイスをするためにも、今回のアンケートで難易度の高かった「製図」「仮縫い」「衿付け」「カフス付け」「袖付け」などの項目では、より丁寧な技術指導を心掛けなければならない。

「なるほど!」と感じたり、印象に残った工程については、それぞれの学生が異なるように、理解力にばらつきがあり、感覚には個性がある。学生の疑問やアイデアにいつでも応じられる体制作りをし、「なるほど!」とうなずいてくれるような方法で授業をし、「気に入った」作品に仕上がるように導かなければならないと考える。

創作力をできるだけ具現化し、服作りの喜びを知ってもらうことが、この授業の課題であると考えている。将来二度と服作りをしなくなるか、それとも子供服でも作ってあげたいと考えるようになるか、それがこの授業の成否を判断する基準になると思うのである。

参考文献

- 1) 荻野千鶴子、古川智恵子、加藤恵子、皆川琴江：短期大学における被服構成および実習に関する研究（第5報）洋裁教育およびブラウスに関する実態調査、名古屋女子大学紀要19、(1973,) p.181-191
- 2) 渡部句子：「ファッション造形実習Ⅰ」におけるICT活用の試案、文化女子大学紀要、38、9-17 (2007)
- 3) 小田明美、定延久美子、田中由佳理、日下英子、杉本樹里：被服構成学におけるPersonal Computer 活用の研究—オーバー・ブラウス自動作図プログラムプログラムを中心に—大阪樟蔭女子大学論集44、(2007) 109-20
- 4) 鳴海多恵子：社会との連携「全国中学生創造ものづくり教育フェア」への後援・協賛、日本家政学会被服構成学部会誌、30号 (2009)、p.47
- 5) 藤田恵子：学生の被服製作における布の色選択とトレンドカラー、東京家政学院大学紀要、第47号 (2007)、p.41-48

(受付 2012.3.27 受理 2012.5.24)

ブラウス制作についてのアンケートにご協力下さい。

「服飾造形実習・演習B」

2012年1月

_____ クラス _____ 番 _____ 歳 氏名 _____

1. 衿付き、袖付きのブラウス制作は初めてでしたか？（ ）に○を付けて下さい。
 () はい () いいえ
2. 1. で「いいえ」とお答えの方にお聞きます。以前制作した時の学年を（ ）に書き、制作した場所
 (授業、学校の行事、家) の（ ）に○を付けて下さい。
 中学校 () 年生 () 授業 () 学校の行事 () 家
 高等学校 () 年生 () 授業 () 学校の行事 () 家
3. 今回制作した衿の名称は何でしたか？上衿の形もお答え下さい。（ ）に○を付けて下さい。
 () シャツカラー () 角 () 丸
 () フラットカラー () 角 () 丸
 () 台衿付きシャツカラー () 角 () 丸
 () その他 ()
4. 衿作りと衿付けで、難しかった順に1～12まで番号を付けてください。最も難しかった作業を(1)として下さい。
 () 製図 () 最初の衿の裁断と印付け(仮縫い用)
 () 仮縫い () 仮縫い後の補正(修正)
 () 接着芯を貼る () 接着芯を貼った表衿にパターンを転写
 () 表衿に合わせた裏衿の裁断と縫い代の整理 () 表衿を0.2cm控えた衿回りの縫合
 () 表に返してアイロンで形成 () バイアスの準備(裁断、アイロン)
 () 身頃に衿、見返し、バイアスを置き衿ぐりの縫合 () バイアスによる衿ぐりの始末
 () その他 ()
5. 4. で最も難しかったと答えた理由を書いて下さい。
 ()
6. 袖作りと袖付けで難しかった順に1～12まで番号を付けてください。最も難しかった作業を(1)として下さい。
 () 袖の製図 () 袖の裁断と印付け(仮縫い用)
 () 袖山、袖口のぐし縫い () 袖の仮縫い(カフスを付け、身頃に仮縫いする)
 () 仮縫い後の補正(修正) () 袖口開きの見返し作り
 () 袖口開きの見返し付け () 袖下のミシン縫いとロックミシン掛け
 () 袖口のギャザーをカフスに合わせて縫合 () カフスのボタンホールとボタン付け
 () 袖付けのミシン縫い(AH) () 袖付け縫い代のロックミシンによる始末(AH)
 () その他
7. 6. で最も難しかったと答えた理由を書いて下さい。
 ()

8. 接着芯の裁断と貼った作業で難しかった順に番号を付けてください。最も難しかった作業を(1)として下さい。

- () カフスの接着芯の裁断 () カフスに接着芯を貼る
 () 衿の接着芯の裁断 () 衿に接着芯を貼る
 () 身頃の見返しの接着芯の裁断 () 身頃の見返しに接着芯を貼る

9. 8. で最も難しかったと答えた理由を書いて下さい。

()

10. ボタンホールについてお聞きます。作品はミシンと手のどちらでかがりましたか? (○) を付け下さい。

- () ミシンかがりのみ () 手かがりのみ
 () ミシンと手かがりの両方

11. 10で「手かがりのみ」を選んだ理由をお聞きます。該当の() に○を付けて下さい。複数回答可

- () きれいに仕上がるから () 短時間でできるから
 () ミシンの順番待ちをしなくなかったから () マスターして将来子供服などに使いたいから
 () ミシンのボタンホール用部品がなくても出来るから () 手作業が好きだから
 () その他 ()

12. ブラウス制作で最も難しかった作業を(1)として(18)まで、難しかった順に() に番号を書いて下さい。

- 製図 () 人体計測 () 原型製図 () ブラウスの製図
裁断・印 () 布の裁断 () 仮縫い用印付け
仮縫い () 仮縫い(組み立て) () 補正(修正)
本縫い () ダーツ縫い () 肩、脇のミシンとロックミシン掛け
 () 身頃前端に続く見返しの接着芯貼りとロックミシン掛け
衿 () 衿作り () 衿付け
袖 () 袖口開きの見返し付け () 袖口のカフス付け
 () 袖付けのミシン掛け(AH) () 袖付けAHのロックミシン
ボタン・ホール () ボタンホール () ボタン付け

13. ブラウスの制作過程で「なるほど!!」と思ったり、印象に残るカ所に◎を書いて下さい。また自分で上手く仕上がったと思うカ所に○を付けて下さい。複数回答可

- 製図 () 人体計測 () 原型製図 () ブラウスの製図
裁断・印 () 布の裁断 () 仮縫い用印付け
仮縫い () 仮縫い(組み立て) () 補正(修正)
本縫い () ダーツ縫い () 肩、脇のミシンとロックミシン掛け
 () 身頃前端に続く見返しの接着芯貼りとロックミシン掛け
衿 () 衿作り () 衿付け
袖 () 袖口開きの見返し付け () 袖口のカフス付け
 () 袖付けのミシン掛け(AH) () 袖付けAHのロックミシン
ボタン・ホール () ボタンホール () ボタン付け

14. 13で◎にしたカ所の説明をして下さい。

()

15. あなたの制作した作品についてお聞きします。気に入りましたか? 該当の () に○を付けて下さい。
() 気に入っている () どちらとも言えない () 気に入らない
16. 15の回答の理由をお答え下さい。
()
17. あなたの布についてお答え下さい。次のどの種類ですか? () に○を付けて下さい。
() 無地 () 小花模様 () 水玉模様 () 幾何学模様
() レース地 () その他 ()
18. 布の色は何色ですか? プリントの場合は地の色をお答え下さい。
() 色
19. あなたは布の色について(プリント模様も含めて)気に入っていますか?
() 気に入っている () どちらとも言えない () 気に入らない
20. あなたは布の厚みについて(レース地の部分的な厚みも含めて)お答え下さい。
() 全体に厚くて扱いにくかった () 部分的に厚くて扱いにくかった
() 薄すぎて扱いにくかった () 丁度良い厚さで扱いやすかった
21. サンプルについてお聞きします。サンプルを参考にしましたか? () に○を付けて下さい。
() 参考にした () どちらとも言えない () 参考にしなかった
22. 21で「参考にした」と回答した方にお聞きします。サンプルの何を参考にしましたか?
() に○を付けて下さい。複数回答可
() 色 () 衿の形・大きさ () 胸元の開きの程度
() 着丈 () ボタンホール () ボタンのサイズ、質感
() その他 ()
23. 「こんなサンプルがあったら良かったのになー」と思うものがあったら、書いて下さい。ただし、学生の皆さんが授業で制作可能な範囲でお答え下さい。空間が足りない場合、質問24の後か裏に書いて下さい。
()
24. 授業で学んだテクニックを生かして2枚目のブラウスを作るとしたら、どんなデザインを制作したいですか? 絵にして下さい。用語が必要でしたら添えて下さい。空間が不足の場合、裏を使って下さい。

ご協力ありがとうございました。